

18. 鳥獣害防止対策

作物名と鳥獣名	耕種防除	薬剤防除			
		使用時期・薬剤名	濃度	使用回数 使用方法	備考
作物全般：鳥類		—	—	—	—
稲：スズメ	<p>1. 加害期間を通じて、おどしを設置する。加害開始後のおどしの設置は効果が低いので、加害開始直前（水稻：出穂直前、大豆：発芽直前等から複数のおどしを圃場外縁部に重点をおいて目立つように設置する。</p> <p>2. おどしは、時々移動させる。おどしの種類を変える等の方法により変化をつけると、鳥のおどしに対する慣れが抑制できるので、効果が高まる。</p>	播種前・アンレス	10倍	1回 種籾を浸漬(1~2分)し、風乾後播種する。	<p>1. 他剤での種子消毒はアンレス使用前に行う。</p> <p>2. アンレスはチウラムを含む薬剤との重複使用は行わない</p> <p>3. 鳥の状態や周辺環境により、薬剤の効果がふれるので耕種防除を併用する。</p>
稲：スズメ、ハト、キジバト、カラス、カワラヒワ 麦類：ハト、キジ、スズメ いんげんまめ、えんどうまめ：ハト、カラス、キジバト 豆類(未成熟)、豆類(種実、ただし、いんげんまめ、えんどうまめを除く)：ハト、カラス ひまわり：カラス、ムクドリ、ハト 雑穀類(とうもろこしを除く)、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム：カラス、キジ、ハト、キジバト、ムクドリ、スズメ	<p>【主なおどしの種類(周辺住民に配慮して選択すること)】</p> <p>① 視覚：かかし(マネキン)、防鳥テープ、目玉風船、反射板、鳥の模型など。</p> <p>② 聴覚：花火類、爆音機 ・ がん具用煙火を鳥獣の追い払い用を使用する場合、火薬又は爆薬10g以下のロケット花火を1日に200個以下を使用するのであれば、都道府県知事の許可は不要だが、200個を超えて使用する場合は、都道府県知事の許可が必要である。 ・ 爆音機を使用する場合は、「香川県爆音機対策ガイドライン(20年4月23日付け、環境森林部長・農政水産部長)」に従い、周辺住民等に配慮する。</p> <p>③ 触覚：糸類、ピアノ線、粘着剤</p> <p>④ 味覚：登録薬剤</p> <p>⑤ 嗅覚：登録薬剤</p> <p>3. 集団栽培、一斉播種により、被害を分散させる。</p> <p>4. 防鳥網で覆う。</p> <p>5. 大豆は小面積の場合、移植栽培する。</p> <p>6. タバコの後作大豆は、タバコの葉の隠ぺい効果により、被害が軽減できる。</p> <p>7. 被害の甚だしい場合は、所定の捕獲手続きを経て捕獲する。</p>	播種前・キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg当り 原液20ml	1回 塗沫処理	<p>1. チウラムを含む薬剤の重複使用は行わない。ただし、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガムは、1回のみ使用できる。</p>
稲、野菜、果樹：イノシシ	<p>1. 環境の改善</p> <p>① 田畑周辺の里山や耕作放棄地の雑草を刈り取り、イノシシの住みかをなくす。</p> <p>② 里山の柴グリや管理を放棄した果樹類は伐採する。</p> <p>③ 水稻や野菜などは二番穂や収穫残さが残らないように、収穫後はすみやかに耕起する。</p> <p>2. 侵入防止</p> <p>侵入防止柵の効果を持続させるため、定期的に柵の点検と草刈りを行う。</p> <p>① 電気柵</p> <p>通電ワイヤーを、柵状に設置したもので、電気ショックによりイノシシを撃退する心理柵。これは、学習によって柵を回避するようになった野生動物の心理を利用した防護柵である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 柵の高さは、イノシシが鼻で触れやすいように、地面から20cm間隔で3段ばりとする。 下草が伸びると漏電して電圧が下がるおそれがあるので、定期的に草刈りを行う。 				

イノシシの侵入防止用電気柵の基本(電牧線3段張り)

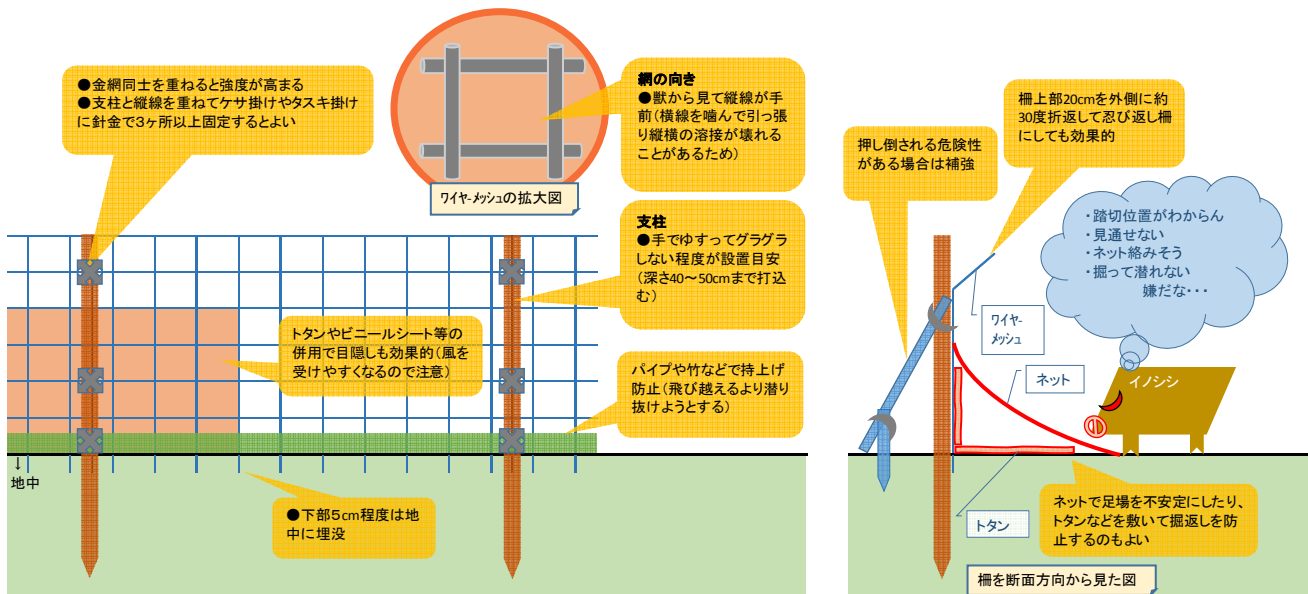
【電気柵の施設における安全確保について】

1. 電気さくを施設した場所には、人が見やすいように適当な間隔で危険である旨の表示をする。
2. 電気さくは、次のいずれかに適合する電気さく用電源装置から電気の供給を受けること。
 - イ 電気用品安全法の適用を受ける電気さく用電源装置
 - ロ 感電により人に危険を及ぼすおそれのないように出力電流が制限される電気さく用電源装置であって、次のいずれかから電気の供給を受けるもの
 - (イ) 電気用品安全法の適用を受ける直流電源装置
 - (ロ) 蓄電池、太陽電池その他これらに類する直流の電源
3. 電気さく用電源装置（直流電源装置を介して電気の供給を受けるもの）にあつては、直流電源装置が使用電圧30V以上の電源から電気の供給を受けるものである場合において、人が容易に立ち入る場所に電気さくを施設するときは、当該電気さくに電気を供給する電路には次に適合する漏電遮断器を施設すること。
 - イ 電流動作型のものであること。
 - ロ 定格感度電流が15mA以下、動作時間が0.1秒以下のものであること。
4. 電気さくに電気を供給する電路には、容易に開閉できる箇所に専用の開閉器を施設すること。

② ワイヤメッシュ柵

近畿中国四国農業研究センターで考案された柵で、土木建築工事などで使用されるワイヤメッシュ（溶接金網とも呼ばれる）を物理的に侵入防止柵として利用するもの。ワイヤメッシュはホームセンターなどで販売されている。

- ・イノシシは隙間から侵入を試みるので、隙間なく設置する。
- ・イノシシ幼獣は15cmの隙間を潜り抜けるので目合い10cm以下のワイヤメッシュを使用する。（二重張りや他の資材などを併用して目合いを調整するのもよい）。
- ・線径4mm以上が望ましいが、線径の細いものは支柱を増やすなどで対応する。
- ・高さ1.2m以上が望ましいが、ワイヤメッシュの規格は1×2mまたは2×4mが一般的であるので、状況に合わせての対応となる。（忍び返しにすれば高さ約1mでも効果的であ



ワイヤメッシュ(金網)柵の設置のポイント

- ③ ネット柵
 - のり網や専用のネットを柵状にはり、イノシシの侵入を防止する。
 - ・柵の下から潜り込まないように、ネットの裾を50cm程度畦畔に垂らす。
 - ・柵の高さは、イノシシが飛び越えにくいように、1.2m程度とする。
 - ・のり網柵は、網を二重にはると効果が高い。
- ④ トタン柵、シート柵
 - トタン板、ビニールシートなどを柵状に設置することによって、物理的、視覚的に作物をイノシシから遮蔽し侵入を防止する。
 - ・柵の高さは、イノシシが飛び越えにくいように、1.2m以上とする。
 - ・柵の継ぎ目や地面との間に隙間ができると、イノシシが潜り込むので注意する。

1. 環境の改善

- ①里山の柴グリや管理を放棄した果樹類は伐採する。
- ②水稲や野菜などは二番穂や収穫残さが残らないように、収穫後はすみやかに耕起する。
- ③家庭の生ゴミを田畑や山に捨てない。
- ④可愛いからといって、サルに餌を与えない。

2. 追い払い

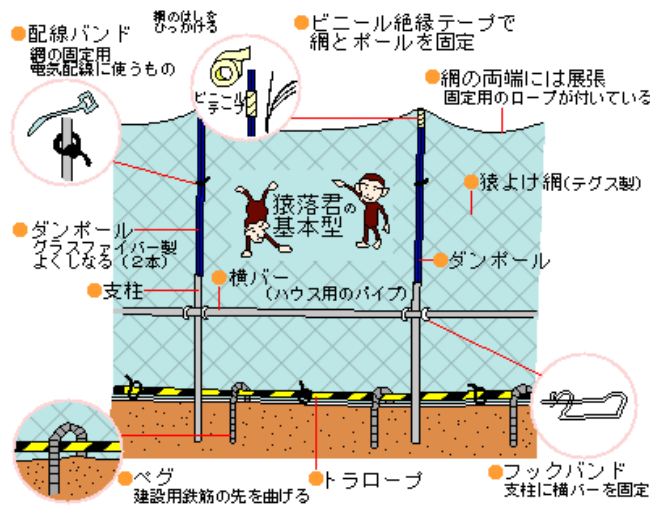
サルを見つけたら直ちにパチンコ、花火、犬等を使って追い払い、人や農地は怖いものと学習させる。

3. 侵入防止

①猿落君

ダンボール、テグス網などを使って柵状に設置することによって、物理的に作物をサルから遮蔽し、サルの侵入を困難にする。

- ・ネットの裾や継ぎ目から侵入しないように、裾を確実に固定するとともに、継ぎ目は重ね合わせる。
- ・サルの学習程度にあわせ、「ヒサシ」を設置するなどして侵入防止効果を高める。
- ・設置場所選びのポイント
 - ①ある程度人の気配のある圃場
 - ②山に接していない圃場
 - ③柵の周囲に侵入を助けるもの（木や建物など）のない圃場



猿害防止柵「猿落君」(奈良県資料より)

【主な材料】

鉄パイプ、ダンボール、猿よけテグス網、トラロープ、ベグ、ビニールテープ、防鳥テープ

【作業手順】

- ①ほ場周囲に2m間隔で直管パイプを打ち込む。
- ②支柱に地上30～40cmの高さで横バーを固定する。
- ③ダンボールを2本1組とし、先端から10cmのところをビニールテープで束ね、支柱に差し込む。
- ④支柱の足元にトラロープを巡らせ、ベグで地面に固定する。
- ⑤ダンボールの先端部にビニールテープで猿よけ網を固定する。
- ⑥網の下部をトラロープに固定する。
- ⑦出入り口を作る。

※追い払いをほとんど行っていない圃場で柵慣れが進んでしまい甚大な被害が発生する場合がある。このため、遮光率約80%のポリエチレン製の目隠しネットで柵内が見渡しにくくし、柵の耐久性の向上とサルが警戒心を抱きやすくする改良を進めている(奈良県ホームページ、農業開発研究センターニュース131号より)。

※異なる柵を組み合わせるなど、その他の効果的な防除対策を併用してサルの侵入しにくい状況をつくることもよい。また、複合柵としての商品もある。

野菜、果樹：アライグマ・
ハクビシン

1. 環境の改善

- ① 収穫しない果実、落下した果実や食べかけの農作物は農地に残さず、簡単にとられないように、埋設など適切に処理する。
- ② 家庭から出た生ゴミ、廃棄果実を堆肥がわりに農地や庭先などに放置しない。
- ③ 農地周辺にある用水路や排水路などは、アライグマやハクビシンの移動経路になるため、落ち葉や枯れ葉、枯れ枝などが堆積しないよう清掃する。

2. ねぐらをつくらせない

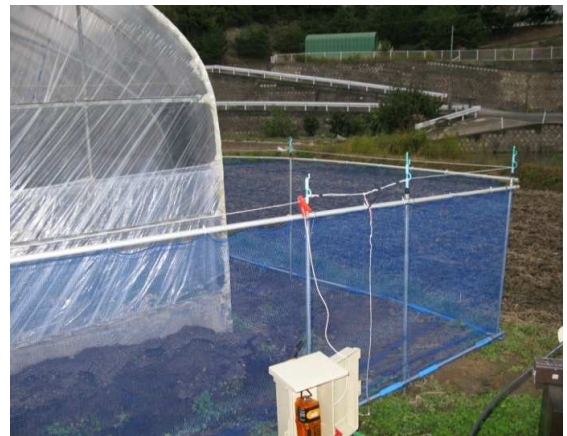
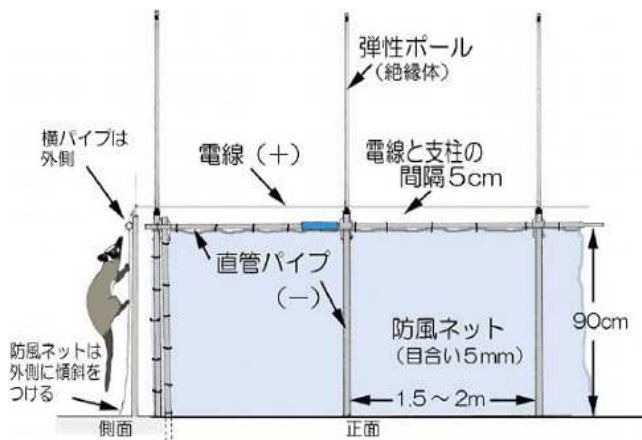
ねぐらを建物の中につくることが多く、天井裏や壁の隙間など狭いところを好む。くり返し被害が発生する場所には、近くにねぐらがあることが多い。ねぐらはエサ場への前線基地なので、ねぐらを発見しつぶすことができれば、被害減少に大きくつながる。

3. 侵入防止

① 電気柵

- ・イノシシの項参照
- ・柵の高さは、地面から10cm間隔の3段張りとする。
- ・歩行時目線は地上5~10cmと低い。最下段の電線と地面に大きな隙間を作らないようにする。（特に傾斜地や起伏の多いところでは注意が必要）

② 中型侵入防止柵「白落君」



※防風ネットのすそは、直管パイプに巻き込み
パッカーでとめる。(香川型改良「白楽君」)

(出典) 古谷益朗著「ハクビシン・アライグマ
おもしろ生態とかしい防ぎ方」(農文協)